

# 棚田米 知名度アップを

川棚 中高生と長総大 課題話し合う



意見を出し合う川棚中生や川棚高、長崎総合科学大の学生ら  
＝川棚町役場

東彼川棚町木場郷の「日向の棚田」で栽培する棚田米の知名度アップに向けて、町内の中高生と長崎総合科学大（長崎市）の学生によるワークショップが町内であり、棚田米の強みや課題を話し合った。

同町と同大の包括連携協定に基づく事業で、参加する中高生と大学生のチーム名を「ボンディング」に決

めた。八つの円が輪になったドーナツになぞらえ、「小さな活動が大きな輪になるように」と願いを込めた。

中高大生計13人が参加。経営戦略などの現状分析に用いる「SWOT分析」という手法で棚田米の魅力などを出し合った。参加者は米の味や棚田の景色が強みという一方で、担い手不足のほか、見学時の駐車場や展望所がないなどの課題を指摘。他地区の棚田と比較、分析した後、「日向の棚田」のPRポイントを考え、来年2月までにアイデアをまとめる。

県立川棚高2年の鴨川結さん(16)は「分析を通して、私たちがやらなければならぬことが見えたような気がする」と感想。同校出身で同大総合情報学部1年の伊勢田健太郎さん(18)は「自分にはない発想が高校生から出てきたので、興味深かった。楽しく進めたい」と話した。(佐崎智章)